

## Visual Basic 2005 への変換手順

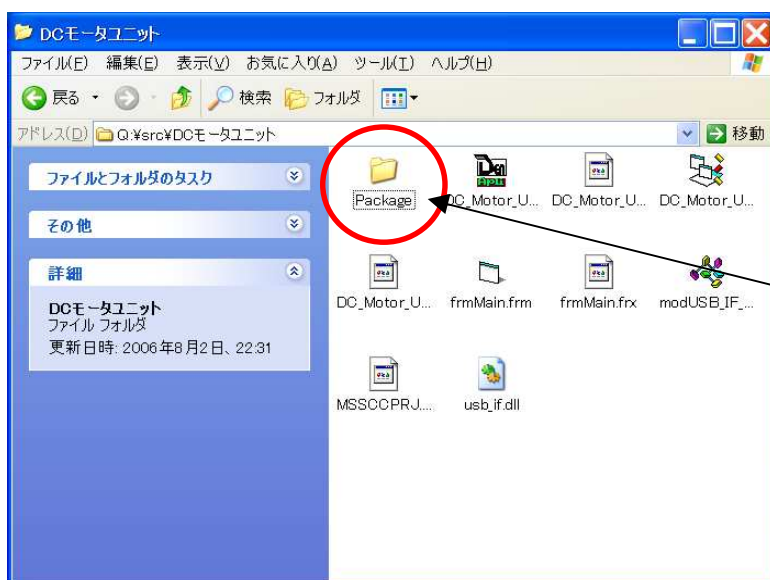
当社の製品に付属してる Windows 用のサンプルプログラムは、Visual Basic 6.0（以下 VB6）で記述されています。

現在、入手可能な開発環境である Visual Basic 2005（以下 VB2005）で参照する場合は、形式を変換する必要があります。

基本的には、VB2005 で自動的に変換されますが、使用されているコンポーネントが参照できる場所にインストールされていないと、エラーが出て変換されない場合がありますので、以下の手順を参考に、サンプルプログラムをインストールしてから参照してください。

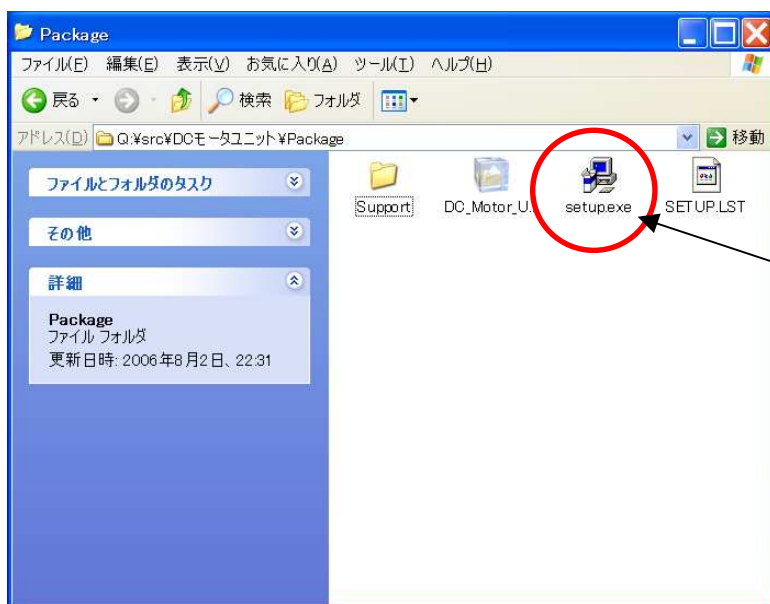
手順は、USB IF BOX に収録されている「DC モータユニット」を例に説明しています。また、VB2005 はあらかじめインストールされていることを前提としています。

### 1. インストールまでの手順



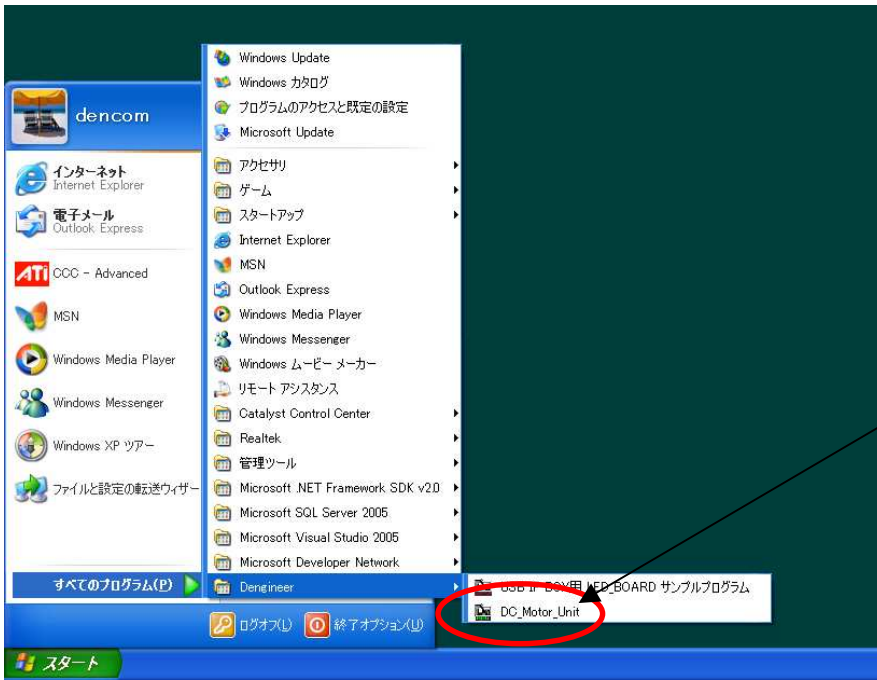
サンプル実行のインストールプログラム「setup.exe」を実行します。

「DC モータユニット」の場合は、「src」→「DC モータユニット」→「Package」フォルダにあります。



「setup.exe」を実行します。

この後は、画面の指示に従ってください。



インストールが完了したら、スタートメニューの「Dengineer」フォルダにインストールしたサンプルが登録されていることを確認します。

この場合は、「DC\_Motor\_Unit」です。

このプログラムを実行すれば、目的のサンプルが動作します。

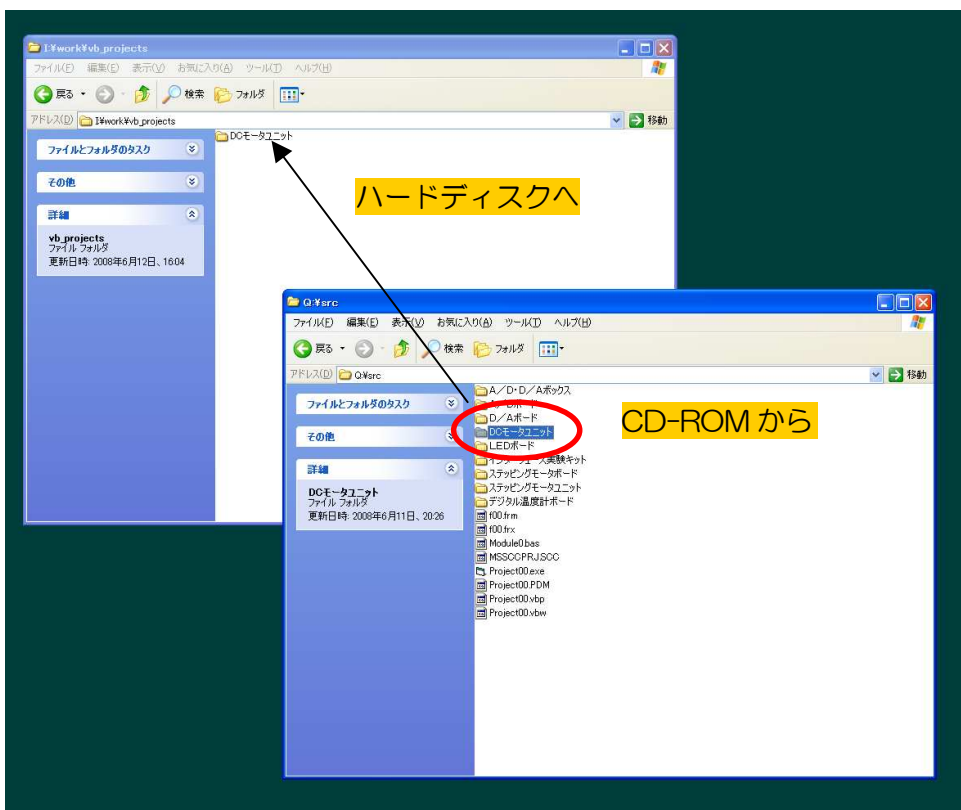
インストールは以上です。

## 2. VB2005 でのプロジェクト起動

サンプルプログラムのソースの確認や編集は VisualBasic にて行なうこととなりますが、VB6 で記述されているため、VB2005 の形式に変換する必要があります。

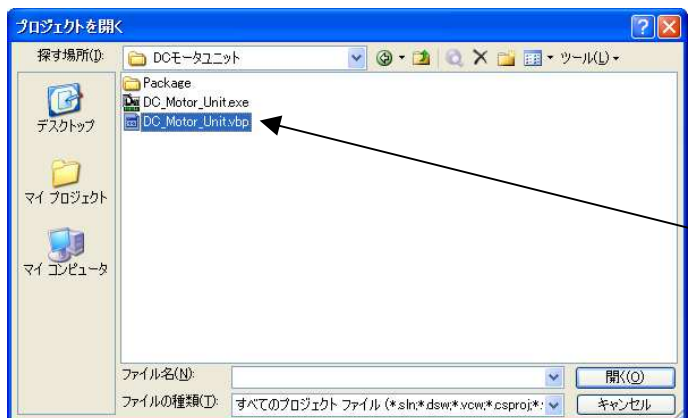
変換は、ほぼ自動的に行なわれます。前述のインストールを行なった後で、以下の手順を参考にプロジェクトを開いてください。

まず、目的のサンプルのプロジェクト一式を付属の CD-ROM からハードディスクにコピーします。ここでは、コピー先として、「¥work¥vb\_projects」というフォルダを作り、その中へコピーしています。



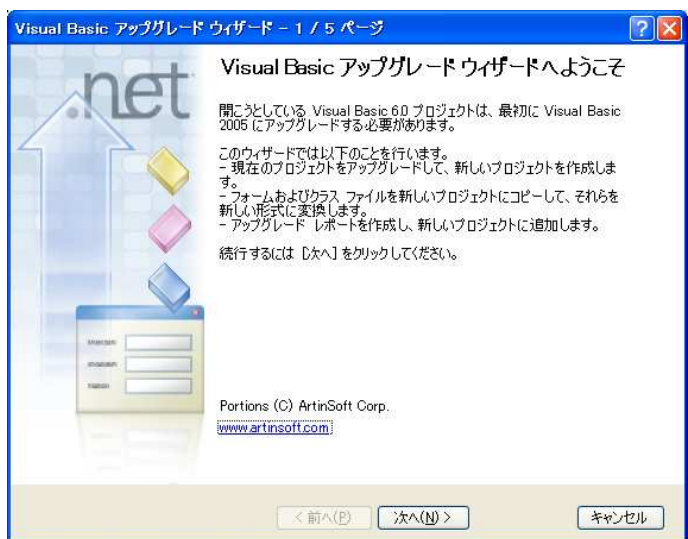


コピーしたら、Visual Studio 2005 を開き、「ファイル」→「プロジェクトを開く」を選択します。

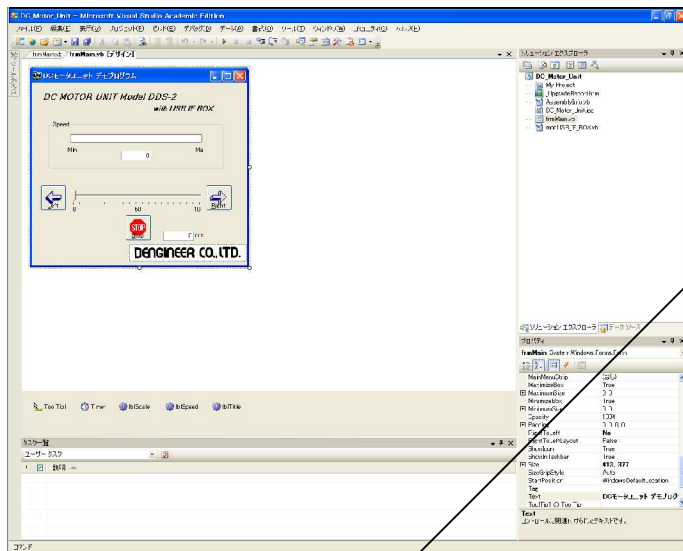


先ほどコピーしたものの中から、プロジェクトファイル（拡張子.vbp）を開きます。

この場合は「DC\_Motor\_Unit.vbp」です。



「Visual Basic アップグレードウィザード」が開きますので、後は画面の指示に従ってください。



アップグレードの処理が完了すると、右上の「ソリューション エクスプローラ」に変換されたプロジェクトが生成されます。



これで、VB2005 による参照や編集ができるようになりました。

後は、VB2005 の参考書や、オンラインヘルプを参照しながら、進めてください。

### 3. 変更点についての有益な情報

Visual Studio 2005 には、オンラインヘルプが付属されており、その中に、「Visual Basic 6.0 ユーザー向けのヘルプ」というものが収録されています。

当社のサンプルプログラムのオリジナルとの違いや、おかしい動作をした時の対処のしかたについて、参考になると思います。

オリジナルの VB6 のものから VB2005 へ適切に変換されなかった部分も、少なからず存在すると思われるので、このヘルプを活用して、修正することをお勧めします。

こうした作業により、VB2005 というプログラミング言語についての理解が、より深まることでしょう。



